

## Y04b 木曾シュミット乾板デジタル化データの公開 – 乾板のデジタル化

中嶋浩一（一橋大学），宮内良子（国立天文台），青木 星（明星大学），青木 勉，征矢野 隆夫，小林 尚人，樽澤 賢一，森 由貴（東京大学），猿楽 祐樹（京都産業大学）

木曾観測所のシュミット望遠鏡は，すでに写真乾板による観測は終了しているが，これまでに撮影された写真乾板は7000枚余りとなり，すべて観測所内の保管庫に収納されている．これらは，天体现象の数十年スケールの時間変動や突発現象の研究に有効に利用されるデータを提供するものであり，貴重な資料として保存されねばならない．また，これらは保存だけでなく有効な利用を可能にするためにデジタル化して公開することも重要である．本プロジェクトはこのような観点から，木曾観測所のシュミット乾板をすべてデジタル化する目的で，2015年に開始されたものである．なお，2018年の国際天文学連合総会の決議のB3として，このような歴史的天文データの保存，デジタル化，および有効活用が行われるべきことが勧告されている．

デジタル化作業はA3判フラットベッドスキャナを用いて行われ，2019年3月にはすべて終了した．読み取り精度は1200dpi，大型乾板1枚のデータ量は約230MBとなる．作業結果は以下の通り：

- 1) シュミット観測の開始からの乾板リストに掲載されている枚数： 7,040 枚
- 2) 欠番，紛失等，および望遠鏡の光学試験用の撮像乾板など，スキャンを省略した枚数： 536 枚
- 3) 特殊目的のために手札判で撮影されており，今回スキャンを省略した乾板の枚数： 235 枚
- 4) 事故や天候の影響により星像が撮影されていないため，スキャンを省略した枚数： 33 枚
- 5) スキャンを行った枚数：  $7,040 - 536 - 235 - 33 = 6,236$  枚